

株主様向け
アンケート


株主の皆さまの声を お聞かせください

当社では、株主の皆さまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。


 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード：4975

携帯電話からもアクセスできます

 QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。




空メールによりURL自動返信

 kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本事業報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間(2007年2月10日まで)です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を進呈させていただきます

 ※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
TEL: 03-5777-3900 MAIL: info@e-kabunushi.com

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日
公告方法 電子公告により、当社ホームページ
(<http://www.eu.ebara.com/ir/index.html>)に掲載
いたします。なお、やむを得ない事由により、電子
公告によることができないときは、日本経済新聞に
掲載して行うものとします。

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

電話お問合せ先・〒135-8722
郵便物送付先 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)

同取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社
本店及び全国各支店

証券コード 4975

証券取引所 東京証券取引所市場第二部



荏原ユーザライト株式会社

〒110-0016 東京都台東区台東4-19-9 山口ビル7
TEL: 03-3833-0321 FAX: 03-3833-5075
www.eu.ebara.com/

第47期中間期 2006.4.1 - 2006.9.30

株主・投資家のみなさまへ



荏原ユーザライト株式会社

証券コード：4975



古紙/リレブ配合率100%再生紙を使用し、大豆油を利用したソイインキを使用しています。

ご挨拶

株主・投資家の皆様へ

株主・投資家の皆様には益々清栄のこととお慶び申し上げます。

お蔭様をもちまして、当社グループの当中間期決算は、原油価格や原材料価格の高騰といった厳しい経済環境ではありましたが、前年に引き続き国内、海外とも極めて好調に推移し、増収増益となりました。

特に、ここ数年にわたり注力してまいりました、中国、台湾及び韓国での海外事業が、期待どおり確実に成果を上げ前年同期比での海外売上高が約2倍となり、当社が目標とします国内と海外の売上高比率50:50にまた一歩近づいております。そして、販売ネットワークの拡充のため、6月には中国子会社の二番目の支店として、広州に続き蘇州支店を開設したことをご報告いたします。

次に研究開発についてですが、従来のウエット(湿式)技術に加え、スパッタリングや、プラズマ処理等のドライ(乾式)技術に、めっき薬品のメーカーとして初めて参入することいたしました。今後は『ウエット技術とドライ技術の融合』をテーマに開発を進めていく次第であります。

当社は、このドライ技術を利用して、めっきや塗装とは差別化できる新しいカラーリング技術^{※1}に、取り組んでいこうと考えております。また、プリント配線板のデスマア処理(熱による変質層の除去)やデスカム処理(回路形成用レジストの残渣

除去)にプラズマ技術^{※2}を使用し、今後益々高密度化及び超微細化するプリント配線板の技術要求に対応できるよう、新しい処理技術の開発にチャレンジすることいたしました。

※1、※2につきましてはトピックスでもご紹介しております

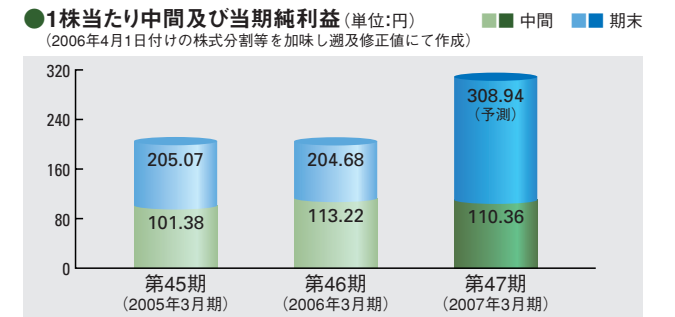
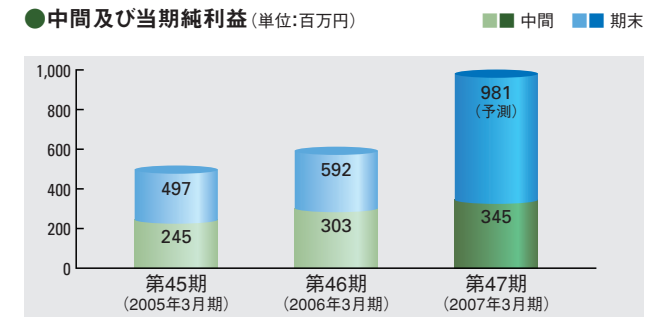
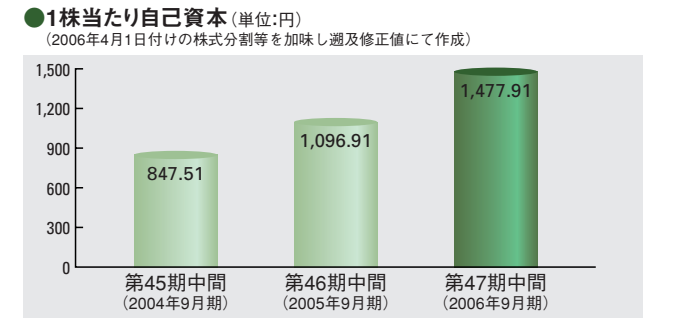
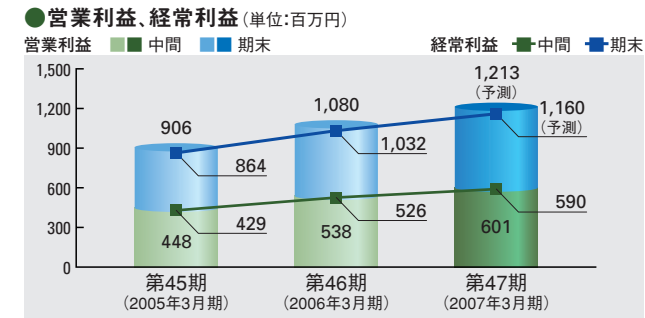
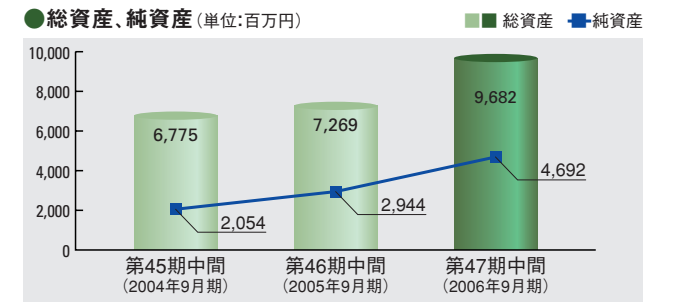
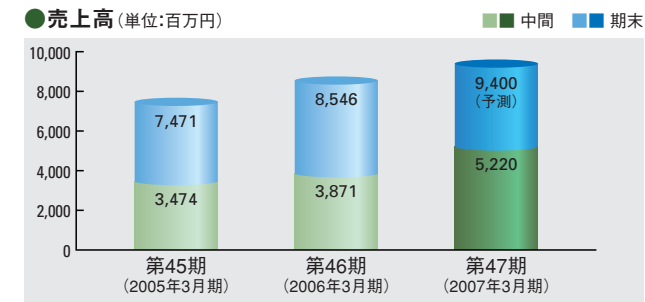
当社は、新しい分野に新しい価値を創造し、新規市場の開発と新しい技術開発を両輪として、更なる社業の発展と不断の技術サービスによる顧客満足度の向上に努めております。

株主・投資家の皆様には、より一層のご支援、ご理解とご協力を改めてお願い申し上げます。



荏原ユーザライト株式会社
代表取締役社長 粕谷 佳允

財務ハイライト (連結)



※2007年3月期には中央研究所土地売却による特別利益が計上される予定です。

CONTENTS

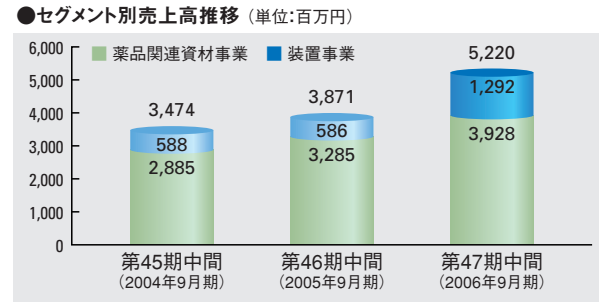
ご挨拶	1
財務ハイライト	2
当事業のご紹介	3
トピックス	5
連結財務諸表 (要旨)	7
単体財務諸表 (要旨)	9
株式の概況/会社概要	10

当社事業のご紹介

当社グループは、めっきを中心とする表面処理薬品と装置を、自動車、建材、水洗金具、プリント配線板、電子部品、半導体等の様々な分野の業界に提供し、表面処理技術を通して社会の発展に貢献しております。表面処理技術は絶えず進化し発展しておりますが、当社は地球環境にも配慮しつつ、常に最先端の技術を社会に提供できるよう、技術陣が一丸となって研究開発に取り組んでおります。

今後、産業のグローバル化がますます顕著になるなかで、製造・販売の海外ネットワークを充実させ、常に明日を見つめて事業の展開を行ってまいります。

当社グループにおける事業の種類別セグメントは、【薬品関連資材事業】と【装置事業】に区分しており、中間期におけます売上高推移は右のとおりであります。



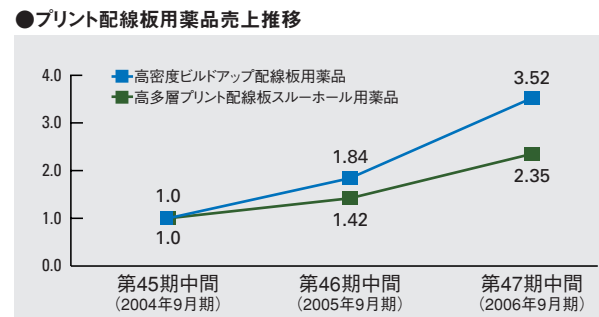
各事業の概要と中間期の概況についてご紹介いたします。

■薬品関連資材事業

当社グループにとりまして最も重要なマーケットであります自動車業界とプリント配線板や電子部品などのエレクトロニクス業界についてご紹介いたします。

自動車業界におきましては、デザイン的に大変重要な部品として、フロントグリルやドアハンドル、またドアミラーなどにめっきが採用されております。めっきの外観は塗装と比べ独特の重厚感があるため、自動車の高級感の演出に大きな貢献をしております。

自動車の生産台数は、中国市場に代表されますように確実に成長を遂げており、今後は中国を含むBRICs諸国やアセアン諸



※2004年9月期の実績を「1」としたときの売上の推移を示しております。

国の成長が期待されております。

当社は、このような海外諸国の発展に対し、確実に対応すべく製造と販売のネットワークの拡充に努め、業績の向上を目指しております。

一方、エレクトロニクス業界では、携帯電話やデジタルカメラ等の電子機器が多機能化及び高性能化することにより、プリント配線板の要求技術は実装技術の高密度化、そして回路の微細化へと益々加速しております。当社は、こうした技術要求に応え、「高密度ビルドアップ配線板用めっき薬品(VFシリーズ)」「高多層プリント配線板用めっき薬品(CB-21など)」「微細配線用パラジウム残渣除去剤(ファインライズ)」「微細配線用シード層除去剤(シードロン)」などを取り揃え、ご好評をいただいております。

■装置事業

当社グループは、長年にわたるめっき装置の製造および販売に、薬品技術とのシナジー効果による総合力を基礎として、顧客の立場に立った販売活動を実施しております。

当社は創業以来、湿式技術によるめっき装置を手掛けてまいりましたが、近年エレクトロニクス業界では、プリント配線板への実装の高密度化や回路の微細化が急速に進んでおり、湿式技術のみでは対応が困難になることも考えられます。

このような課題に対し、従来の湿式技術に乾式によるめっき技術を融合させ、市場の要求に応え得る新しい技術を創生することができないか、検討を開始するとともに、2006年8月に「株式会社第四紀韓国」(韓国の乾式装置メーカー)と業務提携(該社の株式を約6%取得)を行い、研究開発に着手しました。

当中間期の概況

自動車部品向けめっき薬品は、国内では輸出増による自動車生産台数の増加、海外でも中国市場の好調により、売上げが増加しました。

プリント配線板向けめっき薬品は、ビルドアップ配線板の生産量が、携帯電話用基板や半導体パッケージ基板向けに国内、海外(特に台湾)ともに好調に推移し、なおかつ新規顧客の囲い込みに成功したため、業績が特に伸長しました。また電子部品業界でも在庫の調整が一段と進み当社薬品の売上げが増加しました。

この結果、売上高は39億28百万円(前年比19.6%増)、営業利益は9億12百万円(前年比24.3%増)となりました。

当中間期の概況

自動車部品向けでは、樹脂めっき用の全自動めっき装置を国内とベトナムの顧客に納入しました。また、プリント配線板向けでは、スルーホール用全自動めっき装置を国内と台湾の顧客に納入しました。

現在は、台湾をはじめ、中国やアセアン諸国といった海外での装置営業の強化・拡販に注力しております。

当中間期は、重要顧客や成長市場に対し戦略的に販売を行ったため原価比率等が上昇し、売上高は12億92百万円(前年比120.5%増)、営業損失は6百万円(前年同期比54百万円の減益)となりました。

ウイスカ抑制技術について

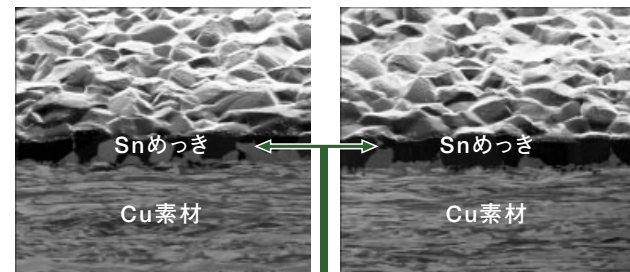
※ウイスカ:電子機器の短絡事故の発生原因となるひげ状の結晶

エレクトロニクス業界では、2006年7月1日、EU(欧州連合)で施行されたRoHS(ローズ)指令に合わせ、電子部品への鉛フリーはんだめっきとして、錫-銀、錫-ビスマス、および錫-銅などの錫合金めっきが実用化されております。しかしこれらの合金めっきは、めっき浴の管理の難しさやコスト高といった課題が解決できないため、純錫めっきが注目されておりますが、錫めっきにはウイスカ発生の問題があり、実用化のためにはウイスカ防止の対策が必要でした。当社では、ウイスカ発生メカニズムについて研究を重ねてまいりましたが、銅素材と錫めっきにおいて、銅と錫の金属間化合物の形成に原因があり、この形成を制御することにより、ウイスカを抑制することに成功しました。当社は、コストパフォーマンスに優れ、管理技術が容易で、環境にも優しい「ウイスカバスター」(ウイスカフリー純錫めっき薬品:特許申請中)が次世代の主要な技術であると確信し、顧客に対し積極的な販売活動を行っております。

■錫めっき断面SEM像

従来型純錫めっきプロセス

ウイスカバスタープロセス

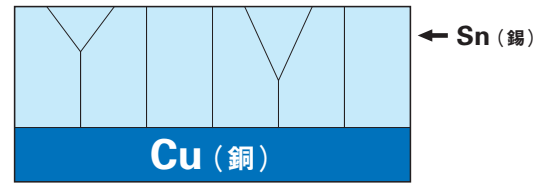


Cu-Sn金属間化合物層

膜厚: 3μm
素材: 銅合金 (KLF194材)
8,000hr. 室温放置

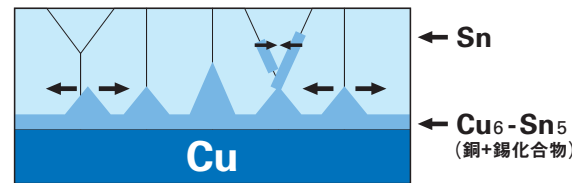
■ウイスカ発生メカニズム

1. めっき直後



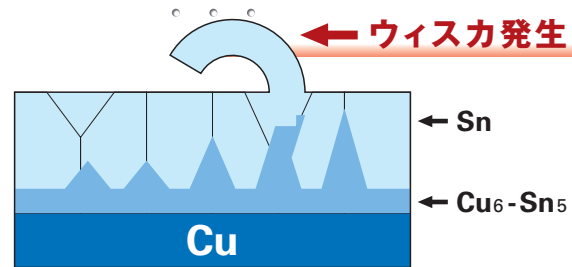
2. 室温放置すると...

粒界に沿って徐々にCuが拡散しCu-Sn金属間化合物が形成されSn皮膜中に圧縮応力がかかる



3. さらに室温放置すると...

Cu-Sn化合物がさらに成長し、表面が不規則なSn粒子が起点となり、ウイスカが発生、成長する



ウェット技術とドライ技術の融合について

当社は、創業以来湿式によるめっき技術を中心に研究開発を行ってまいりました。しかしながら、エレクトロニクス業界では技術革新が進み、プリント配線板のさらなる微細化への対応が要求されるなか、湿式技術だけでは満足されないニーズがでてくると予測し、乾式の技術との併用を検討することとしました。これにより、従来の湿式によるめっき技術よりさらに高度な技術を創出し、先端技術への対応を実現していこうと取り組んでおります。

■プラズマ装置

2006年8月に乾式技術の装置メーカー、「株式会社第四紀韓国」と業務提携(該社株式を約6%取得)を行い、乾式技術でありますプラズマ処理装置の導入に着手しました。プラズマ処理は、薬品を一切使用しないため、地球環境に配慮した表面処理装置です。



プラズマ処理装置

■スパッタリング装置

塗装やめっきでは実現できなかった鮮やかな彩りを、スパッタリング技術が可能にしました。従来のスパッタリングの膜厚は、1μm(千分の1mm)以下でしたが、この技術は数倍の厚さがあり、なおかつ多層になっております。

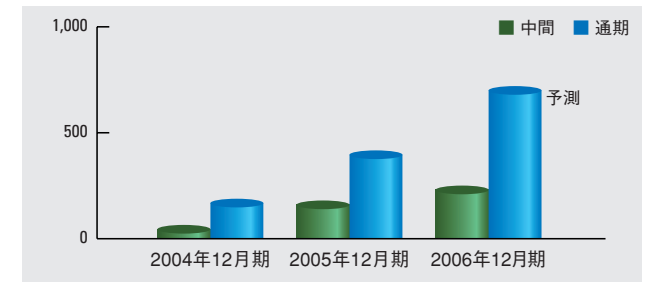


カラーリング色見本

中国子会社の業績

当社グループの中国子会社であります荏原ユーザライト(上海)貿易有限公司は、中国内の自動車生産台数の増加を見込んで、2003年7月に設立されました。現在、自動車部品用めっき薬品を中心に、売上げを順調に伸ばしております。また、営業及び顧客満足の強化を図るため、2004年9月に広州分公司を、2006年6月に蘇州分公司を設立しました。今後はさらにプリント配線板を中心とするエレクトロニクス分野向け薬品の販売も強化し、さらなる発展を目指していきます。

■中国子会社の売上高推移(単位:百万円)



連結財務諸表(要旨)

連結貸借対照表

科目	当中間期 2006年9月30日現在	前期末 2006年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	6,505,383	6,495,987
現金及び預金	1,970,553	2,344,097
受取手形及び売掛金	3,328,643	2,727,309
たな卸資産	833,059	1,158,871
その他	373,127	265,709
固定資産	3,176,771	2,561,423
*1 有形固定資産	2,390,321	1,964,136
無形固定資産	6,805	3,136
投資その他の資産	779,644	594,150
資産合計	9,682,155	9,057,410

2006年5月1日施行の会社法により「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。
これは、貸借対照表上、資産性を持つものを「資産の部」、負債性を持つものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払い能力などの財政状態を、より適切に表示することが可能となります。また、単体も読み方は同様です。

- *1 中央研究所の建設仮勘定が309百万円増加しました。
- *2 支払手形及び買掛金が317百万円増加しました。
- *3 人件費及び固定費が310百万円増加しました。

科目	当中間期 2006年9月30日現在	前期末 2006年3月31日現在
【負債の部】		
*2 流動負債	4,033,727	3,597,623
固定負債	955,462	1,040,625
負債合計	4,989,189	4,638,248
【資本の部】		
資本金	—	878,875
資本剰余金	—	831,524
利益剰余金	—	2,694,337
その他有価証券評価差額金	—	12,341
為替換算調整勘定	—	2,676
自己株式	—	△ 592
資本合計	—	4,419,162
負債及び資本合計	—	9,057,410

科目	当中間期 2006年9月30日現在	前期末 2006年3月31日現在
【純資産の部】		
株主資本	4,686,054	—
資本金	894,437	—
資本剰余金	847,086	—
利益剰余金	2,945,122	—
自己株式	△ 592	—
評価・換算差額等	6,911	—
その他有価証券評価差額金	5,907	—
為替換算調整勘定	1,003	—
純資産合計	4,692,965	—
負債・純資産合計	9,682,155	—

(単位：千円)

連結損益計算書

科目	当中間期 (自 2006年4月 1日 至 2006年9月30日)	前中間期 (自 2005年4月 1日 至 2005年9月30日)	前期末 (自 2005年4月 1日 至 2005年3月31日)
売上高	5,220,831	3,871,372	8,546,421
売上総利益	2,284,503	1,885,995	4,029,811
*3 販売費及び一般管理費	1,683,259	1,347,051	2,949,178
営業利益	601,244	538,943	1,080,632
経常利益	590,681	526,686	1,032,506
税金等調整前中間(当期)純利益	601,020	524,552	1,030,252
中間(当期)純利益	345,998	303,880	592,937

(単位：千円)

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当中間期 (自 2006年4月 1日 至 2006年9月30日)	前中間期 (自 2005年4月 1日 至 2005年9月30日)	前期末 (自 2005年4月 1日 至 2005年3月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	131,834	340,866	904,116
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 303,174	△ 121,675	△ 227,497
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 194,550	△ 528,885	151,055
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△ 7,653	1,797	12,541
現金及び現金同等物 の増加額	△ 373,544	△ 307,896	840,214
現金及び現金同等物 の期首残高	2,344,097	1,503,882	1,503,882
現金及び現金同等物 の中間期末(期末)残高	1,970,553	1,195,986	2,344,097

(単位：千円)

連結株主資本等変動計算書

(自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)

科目	株主資本					評価・換算差額等			純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	
2006年3月31日残高	878,875	831,524	2,694,337	△ 592	4,404,144	12,341	2,676	15,017	4,419,162
中間連結会計期間中の変動額									
新株の発行	15,562	15,562			31,125				31,125
剰余金の配当(注)			△ 75,213		△ 75,213				△ 75,213
役員賞与(注)			△ 20,000		△ 20,000				△ 20,000
中間純利益			345,998		345,998				345,998
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						△ 6,433	△ 1,672	△ 8,106	△ 8,106
中間連結会計期間中の変動額合計	15,562	15,562	250,785	—	281,910	△ 6,433	△ 1,672	△ 8,106	273,803
2006年9月30日残高	894,437	847,086	2,945,122	△ 592	4,686,054	5,907	1,003	6,911	4,692,965

(単位：千円)

(注) 平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

「連結剰余金計算書」(単体では利益処分計算書)が廃止され、「株主資本等変動計算書」が新設されました。これは、貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主の皆様へ帰属する株主資本について、その1会計期間における変動事由と変動額をご報告するために作成する計算書類です。

単体財務諸表(要旨)

単体貸借対照表

(単位:千円)

科目	当中間期 2006年9月30日現在	前期末 2006年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	6,384,504	6,394,420
固定資産	3,244,861	2,614,497
有形固定資産	2,357,869	1,938,615
無形固定資産	6,633	2,866
投資その他の資産	880,359	673,015
資産合計	9,629,366	9,008,917
【負債の部】		
流動負債	4,004,640	3,567,389
固定負債	955,462	1,040,625
負債合計	4,960,103	4,608,014
【資本の部】		
資本金	—	878,875
資本剰余金	—	831,524
利益剰余金	—	2,678,754
その他有価証券評価差額金	—	12,341
自己株式	—	△ 592
資本合計	—	4,400,902
負債及び資本合計	—	9,008,917
【純資産の部】		
株主資本	4,663,355	—
評価・換算差額等	5,907	—
純資産合計	4,669,263	—
負債・純資産合計	9,629,366	—

単体株主資本等変動計算書

(自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
2006年3月31日残高	878,875	831,524	2,678,754	△ 592	4,388,561	12,341	4,400,902
中間会計期間中の変動額							
新株の発行	15,562	15,562			31,125		31,125
剰余金の配当(注)			△ 75,213		△ 75,213		△ 75,213
役員賞与(注)			△ 20,000		△ 20,000		△ 20,000
中間純利益			338,883		338,883		338,883
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)						△ 6,433	△ 6,433
中間会計期間中の変動額合計	15,562	15,562	243,669	—	274,794	△ 6,433	268,361
2006年9月30日残高	894,437	847,086	2,922,424	△ 592	4,663,355	5,907	4,669,263

(注) 平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

単体損益計算書

(単位:千円)

科目	当中間期 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	前中間期 (自 2005年4月1日 至 2005年9月30日)	前期末 (自 2005年4月1日 至 2006年3月31日)
売上高	5,140,634	3,827,098	8,333,247
売上総利益	2,205,164	1,844,714	3,927,454
販売費及び一般管理費	1,610,922	1,299,920	2,834,762
営業利益	594,241	544,794	1,092,692
経常利益	585,037	533,840	1,005,744
税金等調整前中間(当期)純利益	595,376	531,786	1,006,238
中間(当期)純利益	338,883	305,317	564,119

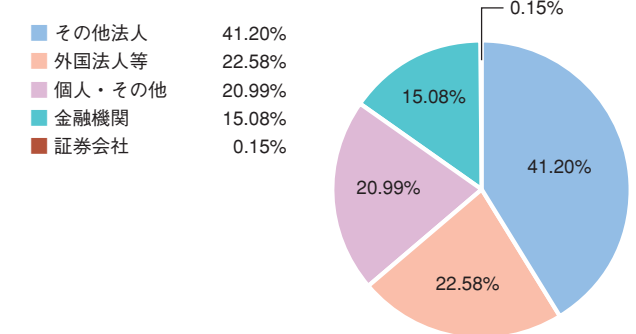
期中における剰余金の変動は、2006年5月1日施行の会社法により新設された「株主資本等変動計算書」で説明されるため、損益計算書末尾の「未処分利益」の計算区分が廃止されました。

株式の概況/会社概要 (2006年9月30日現在)

株式の状況

発行済株式総数 3,175,500株
株主数 1,579名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
エフビーエフ 2000, エル. ビー.	513,500	16.17
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	355,600	11.20
株式会社荏原製作所	339,800	10.70
粕谷 佳允	120,000	3.78
ビービーエイチ フォー フィデリティー ジャパンスモールカンパニー ファンド	88,600	2.79
日本高純度化学株式会社	80,000	2.52
清水鍍研材株式会社	80,000	2.52
栄電子工業株式会社	80,000	2.52
株式会社ユニゾーン	80,000	2.52
神谷理研株式会社	80,000	2.52

(注) 1. 当社は自己株式を100株所有しております。
2. 議決権比率は、小数点以下第3位を四捨五入しております。

● 商号 荏原ユーザライト株式会社
● 本社所在地 東京都台東区台東4丁目19番9号 山口ビル7
● 設立 1968年(昭和43年)4月1日
● 資本金 894,437,500円
● 事業所 【国内】 大阪支店 九州営業所
名古屋支店 甲信営業所
高崎支店 中央研究所
浜松営業所 新潟工場
【海外】 台北支店
ソウル支店
ドイツ事務所

【連結子会社】
荏原ユーザライト(上海)貿易有限公司
上海市浦東新区浦建路145号 強生大廈1606室
TEL . +86-21-5089-3280 FAX . +86-21-5089-3282
広州分公司
蘇州分公司

役員一覧

代表取締役社長 粕谷 佳允
専務取締役 古屋 弘明
専務執行役員
常務取締役 大野 寛二
常務執行役員
取締役常務執行役員 大木 繁司
取締役執行役員 上谷 正明
取締役執行役員 遠藤 豊春
取締役 立松 修
監査役(常勤) 古賀 孝昭
監査役 伴 峰夫
監査役 岸 富也
監査役 高 中 正彦
執行役員 小澤 恵二
執行役員 中沢 隆司
執行役員 君塚 亮一

● 従業員数 連結 238名 単体 236名